

in 八幡浜

アクションチャレンジ

in 成川溪谷

今年で子どもチャレンジ支援機構八幡浜支部の活動は9年目となった。近年の活動からの反省をふまえ、役員会で話し合いを重ねた結果、今年の活動は小学生をはずし、中・高生に絞って募集することにした。人数の削減とチャレンジの内容を深めることが目的であった。

市内中学校7校、高校3校に案内ポスターとチラシを持参して参加者を募ったところ、中学生9名、高校生14名、計23名の参加希望があった。大学生1名と子チャレのOB2名、大人19名の参加も得て、新たなチャレンジを試みた。

第1回アクションプラン（計画）

日時：平成27年7月18日（土）・19日（日）

場所：大洲青少年交流の家

今年の中・高生だけの参加なので話し合いもスムーズにいくであろうと午後からのスタートとした。ところが、部活の関連もあり中学生の参加が2名、高校生は7名と少なく、意見の交換も遠慮がちであったが、二日目に高校生が5名加わり大学生やチャレンジOBと共に計画をたてた。

（スケジュール）

7月18日（土）

- 13:00 集合 開会式 オリエンテーション
- 13:30 レクレーション（コミュニケーションワーク）
- 14:30 グループミーティング①（自分がやりたいことの書き出し）
- 17:00 代表者会議、夕べの集い
- 17:30 夕食
- 18:30 グループミーティング②（チャレンジ内容の検討、概要の決定）
- 20:30 入浴
- 22:30 就寝

7月19日（日）

- 6:30 起床（健康チェック）
- 7:00 朝の集い

- 7:30 朝食
- 9:00 活動計画発表準備（チャレンジ活動のまとめ）
- 12:00 昼食
- 13:00 アクションプラン発表
- 15:00 閉会式、解散



参加者が総勢の2分の1、リピーターも少なく意見のとりまとめに苦労があったが「自然と触れ合う」「自分たちで食事作りに挑戦する」という目的で成川溪谷でキャンプをすることに決定した。

（子ども達の感想）

- ・初めて参加した。知らない人と知り合いになれてよかった。8月が楽しみ。
- ・初めての参加で自分の意見が言いにくかった。次回、自分から動けるようになりたい。
- ・小学生がいないので話し合いがスムーズにいった。うるさくなく良かった。
- ・大人がフレンドリーで意見が言いやすかった。
- ・学校からボランティアだと言われて参加した。想像したのと違っていた。
- ・楽しい計画が立てられて良かった。本番が楽しみだ。

第2回アクションプラン（実施） アクションチャレンジ in 成川渓谷

日時：平成27年8月22日（土）・23日（日）

場所：成川渓谷キャンプ場、滑床渓谷

23名中21名の参加で、班分けはキャンプ資材班と食材班（バーベキュー、朝食、昼食の3班）で、テントの割り振り等の最終話し合いはバスの中で決める。当日参加の子どもが多数おり、チームプレーがうまく行くのか不安の中で始まったが、買い出し、荷物運び、テント設営、食事作り、川遊び、肝試し等子ども達はその場その場での役割をこなし、自然の中で楽しい体験をした。

（スケジュール）

8月22日（土）

- 8:30 集合（みなっと）ミーティング
- 9:00 出発
- 9:30 ダイキ買い物（キャンプ資材）
- 9:50 ダイエー買い物（食材）
- 11:30 成川渓谷到着 荷物おろし、整理
- 12:00 昼食（弁当）
テント張り、虫よけスプレー作り、川遊び、自由
- 15:00 夕食準備、肝だめし下見
- 17:00 バーベキュー、肝だめし、お風呂（高月温泉）
- 21:00 就寝



8月23日（日）

- 6:30 起床、洗面、朝食の準備、
昼食弁当作り（焼きそば）
朝食、テント片づけ、清掃
- 11:00 滑床渓谷に移動
川遊び、自由遊び
- 14:30 出発
- 16:30 八幡浜着 解散





第3回アクションプラン（報告会&クリスマス会）

日時：平成27年12月27日（日）

場所：みなと交流館

参加者：子ども 0人（報告文提出2人）、 大人 16人

年末の慌ただしい時期ではあるが、どうしたことか子どもが一人も来ないハプニングが起き、戸惑い驚いた。何人かは欠席の連絡があり報告文を提出してきてはいたが、当日こちらから連絡を取り欠席を確認した。という次第で、大人だけの報告会となってしまった。

（スケジュール）

13:00 集合、出席確認、連絡

13:30 スライドによる活動報告

クリスマス会、ゲーム、プレゼント交換

意見交換、今年度の反省、来年度の計画

（子どもの感想）・・・報告書提出

- ・初めての参加で、どんなことをするのか良くわからなかったが、大人の方や周りの人が良く話しかけてくれて楽しく計画を立てることができた。今回は小学生がいないということで、中学生、高校生らしいプランが立てれたと思う。大人の方には困ったときにサッとアドバイスを言ってもらい助かりました。とても楽しみにしていた当日は、集合場所に着くと計画を立てるときにはいなかったメンバーがたくさんいてドキドキした。みんなで買い物をしたり、荷物運びをしていくとだんだん打ち解けてきて、皆んな笑顔になっていきました。水鉄砲をするときは、年下だろうが年上だろうがみんな容赦なく水を掛け合い弾けました。料理をするときは、切り方を教えてもらうなど為になる経験がたくさんできた。子どもチャレンジに参加できてよかったです。（高3ちえこ）
- ・アクションプランは途中から参加させてもらった。たくさんの案が出ていて大学生さんたちにまとめてもらいました。無事に決まってよかったです。成川溪谷は夏だというのに寒かったです。大人の人たちやみんな水鉄砲をしたり、ご飯を作ったり楽しかったです。朝方にはサルの鳴き声を聞きました。野生のサル

は初めてでした。2日目はお昼ご飯の焼きそば作りをしたり、川に飛び込んで遊んだり、とても楽しい2日間でした。(高2 ちか)

(大人たちの感想)

- ・ キャンプで子ども達は良く働いた。
- ・ 遊びの要素が多い。子チャレの3つのテーマに充分沿えず、普通にやりたいことで終わった。
- ・ 子ども達が希望したメニューを作ったが、大勢の分量を作るには大人が必死に作らないと間に合わなかった。大変だった。
- ・ テントの設営は大人が見本を示し、見よう見まねで設営した。完成形でなくてもいいのでは・・・と思っている。
- ・ あまり参加できなくて申し訳ない。高校生がゲームで遊んでいたのが残念。
- ・ キャンプの二日目、後始末を頑張っていた。滑床溪谷へ行くために時間を区切ったためではあったが、やりたいことに向けての行動は力強かった。
- ・ 小学生がいなかったのは違和感があった。中高生が下の子を見るということなく自分のやりたいことだけやった。下の子を見るというのも子チャレの目的の一つではないか？
- ・ 子ども達が主体的に動くためには口出しをしない。失敗を許される場所でありたいが、失敗して残念だったで終わらせたくない。子ども達はどう感じたのか知りたい。



かくして、今年度は小学生をはずすことで、中高生のチャレンジの内容を深めることができるのでは・・・という期待は、絵に描いた餅になってしまった。八幡浜では9月、12月、1月にも反省会を重ねて、今後の活動のあり方について様々な意見を出し合いました。

(意見交換)

- ・ 忙しさにかまけ、方向性を確認できないままずるずるときてしまった。
- ・ 役員もやらされ感があり、話し合いができず消化型の活動になっている。
- ・ “やってあげたい”という八幡浜気質が前面に出すぎてしまい子ども達の前に出ているのでは？
- ・ こどもチャレンジで子どもに何を伝えたかったか？大人の意識統一が必要。
- ・ 子どもは、してもらうことに慣れている。何かをしてあげるという気持ちになれるよ



う資料提供が必要だ。

- ・ 高校生は学校からボランティアだと言われて参加している。学校への説明が十分できていない。
- ・ 高校生をリーダーにして、小学生・中学生を引っ張れたらボランティアになる。高校生の立つ位置をはっきりさせるべき。
- ・ 大洲での話し合いに参加できない子どもが多い。3回参加を必要条件にする。
- ・ 星空や風を感じたりする時間がもっと欲しい。作業だけで終わったら大切なせっかくの物が見えないのでは？
- ・ 3つのショックに八幡浜独自の地域貢献というテーマをプラスしたらどうか？
- ・ 役員の負担が特定の人にかかりすぎている。もう少し分業できたらいいのに。
- ・ 子どもにはテーマが大きすぎて捉えきれない。具体的にテーマを絞って募集をかけたらどうか？
- ・ 大人は理想をあげ、熱い思いを持っているが子どもたちは冷めている。面倒くさいをどのように自分のこととして捉えられるか、うまい誘導、情報提供が必要だ。
- ・ 以前は子ども達の要望を削って削って練り上げたが、今は「全部やらせてあげたい」になって、キャパを超えた内容になってはいないか？
- ・ 子チャレの約束を決める。
- ・ チャレンジの内容を毎年決めて、その枠の中で子ども達の自主性を育てるプランを作るのはどうか。
- ・ 班の人数を5~6人に決め、大人も担当を振り分けてはどうか？連絡や移動がしやすい。
- ・ 一人一役を徹底して、出ても出なくてもいいという意識を払拭させる工夫が必要だ。

(まとめ)

過去の報告書を紐解いてみると次のような言葉が目飛び込んだ。

「こども達がいろいろなことにチャレンジして、困難なことを乗り越えたら達成感や充実感を味わせたいと始めたみなチャレ、我々大人も事業の存続をかけて様々な方法にチャレンジしていきたい」・・・讃岐幸治先生（談）

来年は八幡浜も10年目の節目を迎えるにあたるが、初期の目的を再確認しながら、さらなる模索を続けていきたい。まずは、大人チャレンジだ！

